TADOKU JUNIOR　イソップ物語　★★★☆☆ ふつう　286語

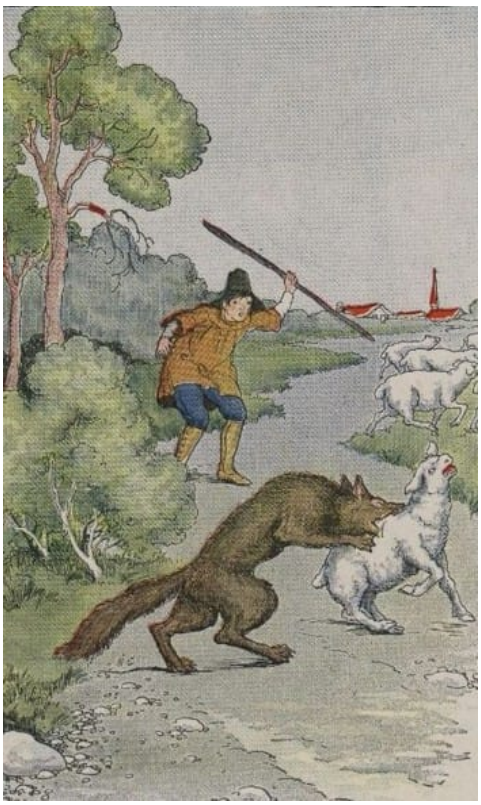
The Shepherd Boy and the Wolf

オオカミ少年（ひつじかいの少年とオオカミ）

Aesop（1919年の本）　**原文そのまま**　朗読：Janet

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？　たいくつしたひつじかいの少年が「オオカミだ！」とうそをついて、村の人たちをからかいます。ところがある日……。



A Shepherd Boy tended his master's Sheep near a dark forest not far from the village. Soon he found life in the pasture very dull. All he could do to amuse himself was to talk to his dog or play on his shepherd's pipe.

One day as he sat watching the Sheep and the quiet forest, and thinking what he would do should he see a Wolf, he thought of a plan to amuse himself.

His Master had told him to call for help should a Wolf attack the flock, and the Villagers would drive it away. So now, though he had not seen anything that even looked like a Wolf, he ran toward the village shouting at the top of his voice, "Wolf! Wolf!"

As he expected, the Villagers who heard the cry dropped their work and ran in great excitement to the pasture. But when they got there they found the Boy doubled up with laughter at the trick he had played on them.

A few days later the Shepherd Boy again shouted, "Wolf! Wolf!" Again the Villagers ran to help him, only to be laughed at again.

Then one evening as the sun was setting behind the forest and the shadows were creeping out over the pasture, a Wolf really did spring from the underbrush and fall upon the Sheep.

In terror the Boy ran toward the village shouting "Wolf! Wolf!" But though the Villagers heard the cry, they did not run to help him as they had before. "He cannot fool us again," they said.

The Wolf killed a great many of the Boy's sheep and then slipped away into the forest.

> **Liars are not believed even when they speak the truth.**

ひつじかいの少年が、村から遠くない、暗い森のそばで、ご主人のヒツジのばんをしていました。まもなく少年は、野原でのくらしがとてもたいくつになりました。たいくつしのぎにできることといったら、犬に話しかけるか、ひつじかいの笛をふくことくらいでした。

ある日、ヒツジとしずかな森をながめながら、もしオオカミを見たらどうしようかと考えていた少年は、おもしろいことを思いつきました。

ご主人は少年に、オオカミがヒツジのむれをおそったら、大声でたすけをよびなさい、そうすれば村の人たちがおいはらってくれるから、と言っていました。そこで、オオカミらしいものなど何も見ていないのに、少年は村のほうへ走りながら、ありったけの声でさけびました。「オオカミだ！オオカミだ！」

思ったとおり、そのさけび声を聞いた村の人たちは、しごとの手を止めて、大さわぎで野原へかけつけました。ところが、着いてみると、少年は、みんなをだましたいたずらがおかしくて、おなかをかかえてわらっていました。

何日かたって、ひつじかいの少年はまたさけびました。「オオカミだ！オオカミだ！」村の人たちはまたたすけにかけつけましたが、またわらわれただけでした。

そしてある夕方、お日さまが森のむこうにしずみ、かげが野原にのびてきたころ、ほんとうにオオカミがやぶからとび出して、ヒツジにおそいかかりました。

少年はこわくなって、村のほうへ走りながらさけびました。「オオカミだ！オオカミだ！」でも、村の人たちはその声を聞いても、前のようにたすけにかけつけてはくれませんでした。「あの子には、もうだまされないぞ」とみんなは言いました。

オオカミは少年のヒツジをたくさんころして、森の中へにげていきました。

> **うそつきは、ほんとうのことを言ってもしんじてもらえません。**

たんご と クイズ　オオカミ少年（ひつじかいの少年とオオカミ）

Sheep ヒツジ	**forest** 森	**village** 村
dog 犬	**pipe** 笛	**Wolf** オオカミ
trick いたずら		

Q1 少年が「オオカミだ！」とさけんだのは、さいしょはどうして？

① オオカミを見たから　② たいくつだったから　③ 犬がいなくなったから

Q2 ほんとうにオオカミが来たとき、村の人たちはどうした？

① たすけに来なかった　② すぐにかけつけた　③ 犬をよこした

こたえ

Q1 ②　野原でのくらしがとてもたいくつだったので、村の人たちをからかっておもしろがろうと思ったからです。

Q2 ①　何どもうそでだまされたので、村の人たちは「もうだまされないぞ」と言って、たすけに来てくれませんでした。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #19994（Aesop、1919年）。パブリックドメイン。
挿絵：Milo Winter（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Janet（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。